

長東黙想会 報告

「ラウダート・シ」プロジェクト

広島教区 平和の使徒推進本部「ラウダート・シ」デスク主催による黙想会を2025年2月1日（土）～3日（月）に長東黙想の家で行いました。「天と地にあるすべてのものは兄弟・姉妹」をキャッチフレーズに、フランスのイエズス会士エリック・シャームタンらが著わした『エコロジーに向かう回心のための霊的な旅路』（2024年5月）をテキストにしたエコロジカルな霊性を深めるための黙想会です。

講師は、広島教区「ラウダート・シ」デスク同伴司祭であり、このテキストを翻訳された中井淳SJ神父様です。参加者は、広島教区だけでなく、東京・横浜・福岡教区からも来てくださり、司祭、スタッフを含め11名が集まりました。また、今回は、長東黙想の家が年度末でいったん閉鎖することもあり、カトリック新聞社の記者さんも取材で参加してくださいました。



天と地にある
全てのものは
兄弟・姉妹

「ラウダート・シ」プロジェクト
黙想会
ご案内

五感をを使った
自然体験

フェアウェル・長東黙想の家

講話・祈り・散歩・ミサ・分かち合い

2/1(土)～2/3(月)
15:00～14:00

自然環境が、人間活動により深刻なダメージを受けています。そして、たくさんの生きものや脆弱な地域の人々が苦しんでいます。神が創造されたものを大切にするために「あらゆる人の才能と関与が必要です」LS14。祈りの雰囲気の中でエコロジカルな霊性を学びませんか。

テキスト / イグナチオの『霊操』に基づく
『エコロジーに向かう回心のための霊的な旅路』エリック・シャームタン s.j.他 著 2024年

同伴司祭 / 中井 淳 師 (イエズス会)
ロクスひよりやま(旧下関労働教育センター)キャプテン

オプションイベント / 「希望の巡礼者」聖年ツアー
2025聖年にあたり、解散後、希望者で、広島教区巡礼指定聖堂 幅町教会を訪問します。

場所 イエズス会聖ヨハネ修道院(黙想の家) 〒731-0136 広島市安佐南区長東西 2-1-36
参加費 15,000円(テキスト代込み/学生割引あり) アクセス JR可部線「安芸長束」下車 徒歩20分
問合せ先 ☎ 080-1913-3756(わたり) E-mail: info@social-desk.net 持ち物 筆記用具・洗面具・『ラウダート・シ』・着替え 他

広島教区 平和の使徒推進本部 申込締切:1月20日(月)
「ラウダート・シ」デスク主催 定員8名 先着順
<https://forms.gle/TnE8HPSfoCMDetQ78> ◀お申込み▶



一日目 雨の音を聞く

『エコロジーに向かう回心のための霊的な旅路』
エリック・シャームタン s.j. / ジェローム・グエ s.j.



Parcours spirituel pour une conversion écologique - Editions jésuites
2020年5月20日出版、150 × 220mm、128頁、220g ISBN : 978-2-87356-857-3

※ 本冊子は上記書籍の私訳（暫定抄訳）である。2024年5月24日時点
著者から翻訳・利用の許可は得ているが、翻訳者に無断での複製・頒布は禁じる。
翻訳：中井 淳 SJ（ロクスひよりやま キャンパテン）
編集：柳川 朋哉（イエズス会社会司教センター スタッフ）

あいにくのお天気、雨の中、黙想の家に到着するとアルペ神父様の「列福祈願ミサ」が終わった直後で、玄関は懇親会のため、食堂へ移動する人々でごったがえしていました。

3時からまず、簡単なオリエンテーションとこの黙想会への望みを自己紹介し合った後、祈りの導き①で、中井神父様より、とにかく思考を止めて、自然の中に入っていきようお話しいただきました。後は、各自の祈りの時間となり、沈黙のうちに夕食、そして、自由参加のドキュメンタリー映画

『TOMORROW パーマネントライフを探して』
（2015年 メラニー・ロラン / シリル・ディオン監督）の前半を鑑賞しました。

映画は、新しい「農業」や「エネルギー」のあり方を構築している町の人々の紹介で、空き地や歩道脇の花壇で野菜を育てつつ、道で会話が盛り上がる様子やパーマカルチャー*（持続型農業）のやり方、手押し種まき機で、所狭しとたくさんの種を均等に蒔き、あとで間引く方法が印象に残りました。



*パーマカルチャー：持続型農業。パーマネント（永続性）とアグリカルチャー（農業），そして，カルチャー（文化）を組み合わせた言葉
<https://www.cetera.co.jp/tomorrow/>

二日目

自然・仲間と響き合う

雨は上がったものの曇天のもと、神父様の祈りの導き②では、天地創造の物語「これでよい」と言われる神様のお言葉と、守り耕すよう与えられた人間の責任を思いつつ、木の下に入って自然と響き合うよう誘われました。

11時からのネイチャー・ゲーム*（自由参加）では、「自己紹介体操」で緊張をほぐしつつ、「サウンドマップ」で、風の音や鳥の声に耳を澄ませ、「フィールドビンゴ」で、果樹園を散策しながら、落ち葉の下の虫たちやゆず・ヨモギなど食べられそうなものをチームで探し、発見の喜びを分かち合いました。

午後の祈りの導き③では、識別について、慰めと荒みの区別の仕方を教えていただき、「裸足で歩ける緑の道」を自分が選んでいるか問いかけられました。

また、夕方のミサでは、「主の奉献」を祝って、祈りの分かち合いを共同祈願として捧げ、夕食後に、映画「TOMORROW」の後半を鑑賞しました。自然体験を通して、リラックスし、心開かれ、除草剤散布のないありのままの姿の長束の庭で、聖堂で、お互いに聞き合う一日となりました。





三日目：「緑の道」 を歩む決意

引き続き曇り空、時折日が差したり小雨が降ったりする中、神父様の祈りの導き④では、希望をもって「緑の道」を選んでいくよう勧められました。そして、アイルランドの詩人/哲学者ジョン・オドノヒューの言葉を紹介してくださいました。

「私は今、どの入り口に立っているのだろうか？ 人生の今、私は何を手放そうとしているのだろうか？ … (中略) …
自分を前へと呼ぶ内なる声が聞こえるまで、完全な注意を払って内側に耳を傾けよう。超えてゆく時が来たのだ。」

そして、祈りのうちに色鉛筆などを使って、画用紙に自分のシンボルを中心としたライフデザインを描くことになりました。

11時からのネイチャー・ゲーム (自由参加) では、まず、「呼吸数えのメディテーション」で心身を整え、次に、ミクロな世界へ入るため、虫眼鏡で、冬芽や木の幹・種などを観察して神様の創造の業に触れました。そして、最後に「美の小径」で、丘へ登る十字架の道行き沿いに置かれたカードの聖句や『ラウダート・シ』他からの名言を景観と共に味わいました。

また、昼食後のミサでは、説教の後、各自が描いたライフデザインの絵を見せながら黙想会で得たものやこれから大切にしたいことを分かち合い、それを一人ずつ祭壇に奉献しました。

オプションツアー 聖なる訪問

ミサ後、師イエズス会のシスターに感謝の気持ちを込めて、花籠を手渡しました。会員の高齢化のため、奉仕を続けることが難しいとのことでしたが、手作りジャムや新鮮な野菜を使った丁寧なお料理は、本当においしく、体も心も養われました。そして、長年にわたり献身くださったシスターたちや黙想の家の未来に神様の祝福を祈りました。

解散後、広島教区で巡礼指定されている幟町教会を訪問し、地下聖堂で、聖体礼拝をしました。ミサで歌ったテゼーの曲を初めと終わりに歌い、ご聖体の前で、信仰宣言、主の祈りなどの後、沈黙の時間を持ちました。ろうそくの揺らぎの中、初代教会のカタコンベにいるような雰囲気を感じました。聖体顕示の後、世界平和記念聖堂を見学し、記念スタンプを押して帰路につきました。

3日間を通して、世代を超えて、楽しく交流でき、いつも聖霊の温かさに包まれていました。庭に花の種を蒔くこと、そして、土を耕しながら、自然や神様との和解を経て、他者との和解につながっていくことを心から願いました。

後日、ずうっと上空を覆っていた雲は、神様からのふかふかお布団のプレゼントだったことに気づきました。

